
R灰学園 ～振り回される私は疲労気味～

瑠璃娘

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

R灰学園　く振り回される私は疲労気味く

【Nコード】

N46080

【作者名】

瑠璃娘

【あらすじ】

ある一つの学校があった――

【R灰学園】と云う　それはそれは立派な学校が――

新入生である主人公・永華^{ながかしら}　白がカッコよくて人気のある先輩達に毎日振り回されるギャグストーリー！

時には甘々な展開もありドキドキが止まらない!!

ラ「俺との情熱的なラブコメさ!」

ア「僕との純粋な恋愛モノですよ!」

骸「何を言ってるんですか二人共、

シラは僕のモノだ 雲「邪魔だよ果実。」クハアッ!!!!!!」

「私・・・このままだと本当に死んでしまいそうです・・・色んな意味で」

シラは誰と結ばれるのか!?

そしてシラに安息の日々が訪れることはあるのか!?

ブローグ

キンコーンカーンコーン

「みんなー席に着けー」

ガタガタガタッ

「今日からは中学生となり、新しい生活を送ってもらう。
今までとは違い、少しの間慣れないかもしれないが、みんな仲良く
やってくれー」

全「はい」

「おーいい返事だー
・・・おっと、自己紹介がまだだったな」

カッカッカッカッ

「俺の名はクロス・マリアン。科目は主に理科、音楽、その他もろ

もろだ。

これから一年間このクラスを担当することになった。

まあそんな感じでヨロシクな」

ク「さて、俺の自己紹介が終わったところで、今度はお前らの番だ。出席番号順に1番から軽く自己紹介していってくれ」

クロス先生の指示に従い、一番から名前を言っていた。

後は人それぞれ趣味、特技、誕生日、あだ名などなど色々言って、最後に一言言い席に座っていた。

ついに私の番。

カタッ

「永華白です。特技は模写と妄そ・・・想像です」

そして、私の新しい（非日常）の生活が始まった。

1学 「初めまして。」

ツ・山「おはよう！永華さん／永華！」
シ「おはよう沢田くん、山本くん（ニコッ）」

このR灰学園に引っ越してきて二日目、もうすでにシラには友達が出来ていた。

しかも嬉しい事に、小さい頃から一緒にいたリナリー先輩が高等部にいました！

昨日久々に喋ったけど、あいかわらず可愛かった・・・／／／

思い出して一人でニヤニヤしてたら周りから変な目で見られたけど気にしないでおう。

あーそういえば、今日の放課後リナリー先輩が高等部に来てって言うってたな・・・

リナリー先輩と久々にいっぱい喋れる！と密かに心の中でガッツポーズをするシラであった。

（放課後）

シ「失礼します」

リナ「あっ！シラーっ！」

シ「うぶっ」

教室のドアを開けるやいなやリナリーに抱きつかれてしまい、少し
よろけながらもなんとか倒れずに済んだ。

シ「あははっ、リナリー久しぶり・・・っていつでも、昨日会った
ばかりだけどね」

と、私が喋るとリナリーの後ろから可愛らしい声が聞こえた。

？「リナリー？そちらの女の子誰ですか？」

私は顔を傾けて、その人を見た。

わっ可愛い人・・・／／／

しかも髪が白いし左の額に星がついてる・・・

不思議な人だなあ

と考えていると、その人はいつの間にか私の横に来ていて満面の笑
みで私に話しかけた。

ていうかいつの間に？

ア「僕、アレン・ウォーカーって言います！シラさん・・・でいいですね？」

シ「あっ・・・はっはい！ウォーカー先輩・・・でしたよね？私、永華白って言います！」

少し戸惑いながらも、何とか嚙まずに自己紹介できた。

但至少少しウォーカー先輩の表情が曇った。

マズイ！何かやっちゃった！？と内心焦っていると、ウォーカー先輩が口を開いた。

ア「ウォーカー先輩じゃなくって、アレンでいいですよ」

・・・へ？

何？そこですか？

シ「・・・いや・・・でも仮にも先輩ですsア「いいですつてば。」
・・・はい。」

あれ？チョットまって？

今何か黒いオーラが見えたんですけど？気のせいですか？
さっきまでのピュアな先輩はどこへ？

シ「でも・・・せめて皆の前ではアレン先輩って呼ばせてくださいね？」

ア「はい！じゃあ決まりですね！僕はシラって呼びます！これからよろしくお願いします、シラ！」

ニコツと可愛い笑顔をするのでつい、私も笑顔で答えてしまった。

シ「はいっ！これからよろしくお願いしますっ！アレン先輩！」

ドキッ

笑顔可愛い・・・！！

どうしよう・・・今絶対顔赤いや・・・／／／

急に顔を抑えて後ろを向いたのでどうしたんだろう、と声をかけた。

シ「アレン先輩？大丈夫ですか？顔、どうかしたんですか？」

そう言うと肩が微かにピクツとなりこちらを振り向いた。

ア「シラの笑顔が可愛いから惚れちゃったじゃないですか」

引越して二日目

いきなり先輩から人生初の告白をされちゃいました。

1学 「初めまして。」（後書き）

瑠「わーいやつと1話終わったー＼＼〇＼／」

シ「遅くね？ふつーに遅くね？はい重要なことなんでえー二回言いましたー」

瑠「うざっ 最初からうざっ」

シ「次回も是非ご覧くださいね！こんなのに感想いりませんから」

瑠「すんません謝るんでホントすんません（スライディング土下座）」

シ「だ、そうなので感想他どんどんお待ちしております！」

瑠「亀更新でホントすみません！！（土下座）」

シ「今日謝りすぎじゃね？」

2学 「またですか。」

キンコーンカーンコーン

シ「沢田君、山本君おはよう」

ツ・山「おはよう／おっす！」

私は軽く挨拶をすると、丁度クロス先生が教室に入ってきた。

ク「座つてない奴さつさと席に着けー
出席とるぞー」

そう言い、出席をとると私に視線を合わせて喋り始めた。

ク「あーっと、永華は少しだけ話があるからちよつとついてこい」

シ「？はい」

「何かしたの！？」と沢田君に言われたが、軽く無視した。

だつて何もしてないんだもん

クロス先生と階段を降りて人気の無いところまで来ると、クロス先生が静かに口を開いた。

ク「お前、馬鹿弟子に告白されたんだってな。」

・・・

シ「・・・はい？」

馬鹿弟子？」

ク「あーそうか、誰か分かんねエな。

馬鹿弟子っつーのはアレン・ウォーカーだ、知ってるだろ？」

シ「ああーアレン先輩の事ですか！

・・・ていうか何故それを？」

ク「朝、馬鹿弟子が好きな子ができたって（気色悪イくらいにニヤニヤしながら）お前の事、言ってきたからな。」

うそーん。アレン先輩には羞恥心というものが無いのか、バカヤロウ

シ「うわああアレン先輩なんて事を！！恥ずかしいにも程があります！！！」

・・・てか言ってきた？」

ク「ああ、俺と馬鹿弟子は同じトコに住んでんだ。

もちろん、借金なんかは全部アイツに負担させてるけどな。フッフ

シ「クロス先生、黒いです。」

アレン先輩・・・だからあんなに沢山バイトやってたんだ・・・

・・・今度何か差し入れしよう

ク「まあ、これからアイツの事で色々とよろしくな、ってことだ。

アイツはアイツで良いところがあるから、ヨロシクな。」

くっクロス先生・・・！！
いい人だ！！！！

シ「ハイッ！！アレン先輩ともできるだけ仲良くさせていただきま
す！

クロス先生も色々、頑張ってくださいね！困った事があればお手
伝いしますので！」

ク「ハハッ、そーか。ありがとな。」

クロス先生は、そう言つと私の頭を優しく撫でた。

ちよつと恥ずかしかったけど、優しく頭を撫でてもらったので、少
し嬉しかった。

ク「じゃあ、俺は職員室に戻るからお前も授業行つて来い。」

シ「はい！では、さようなら！」

ク「ああ。」

クロス先生に軽くお辞儀をすると、授業が始まる直前であろう教室を指して走り出した。

ガラッ

教室のドアを開けると、まだ担当の教師が来てないらしく皆、ガヤガヤと騒いでいた。

シ「（あぶなー・・・ギリセーフ！まだ先生来てない！）ただいま、沢田君、山本君。」

山「おう、お帰り！」

ツ「お帰り！クロス先生と何話してたの？」

シ「（うわ、痛い所突かれた！）せつ先輩の事で話してたの！！」

山「ん？先輩の話って・・・誰先輩だ？」

シ「（更に痛い所突いてきやがった！！）え．．えーと、ウォーカ
ー先輩よ！」

山「ふーん。」

ツ「で、内容はどんなのだったの？」

一番痛い所突いてきやがったああ！！！！

もうアレだよ！体を刃物でぶっさすくらいだよ！！

え、コレ言わなきゃいけないの！？言っちゃっていいの！？

えーいもう言っちゃうからな！！はいせーのっ

シ「そっそれは．．．「テメエらさつさと席に着けエエエエエエ！
！！！！」っ！！？」

ツ「えっな、何！！？」

山「先生来たみたいだぜ？」

ツ・シ「山本（君）何でそんなに平然としてんのツツ！！！！？」
」

まあ、山本君が言ったとおり、先生がご到着されたよ「始めるぞお
！！！！」うるっせーんだよ！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4608o/>

R灰学園 ～ 振り回される私は疲労気味～

2011年11月12日11時43分発行